

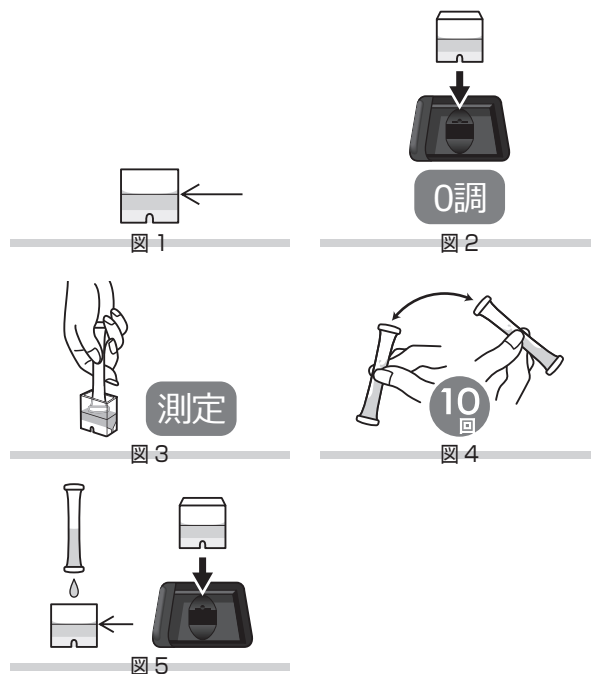
Cu-M 銅（排水）（試薬型式が WAK-CuM の場合）

発色：無色→黄褐色
 測定原理：DDTC 法
 測定範囲：0.5 ~ 5.0 mg/L (ppm)
 試薬：WAK-CuM チューブ
 測定時間：チューブに吸い込み後 3 分

セル：専用カップ
 使用波長：451 nm, 550 nm

測定方法

1. 【Cu-M】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く10回程度振り混ぜます。(図4)
7. すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図5)
8. 経過3分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法は、試薬型式 WAK-CuM 専用です。試薬型式 WAK-CuM-2 を使用する場合は、測定項目 Cu-M-2 を選択してください。
2. この方法では、検水中のイオン状態 (Cu^{2+}) の銅が測定されます。
濁り、沈殿、錯体等を含めた測定値が必要な場合は、あらかじめ溶解してから測定してください。
3. 発色時の最適 pH は9 です。pH が5 ~ 9 の範囲をこえる検水は希硫酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
4. 検水の温度は15 ~ 30℃で測定してください。
5. 検水中の銅濃度が10mg/L までは測定値が「OVER」と表示されますが、15mg/L では沈殿が生じ、測定範囲を超える検水でも測定値が得られることがありますのでご注意ください。
6. 試薬添加後は、激しく攪拌しないでください。発色時の生成物が凝集して測定値が低くなる場合があります。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

1000mg/L以下は影響しない	...	Al^{3+} , B^{3+} (ほう酸), Ba^{2+} , Ca^{2+} , Cl^- , F^- , I^- , K^+ , Mg^{2+} , Mn^{2+} , Mo^{6+} (モリブデン酸), Na^+ , NH_4^+ , NO_2^- , NO_3^- , PO_4^{3-} , SO_4^{2-} , Zn^{2+} , 陰イオン界面活性剤、シリカ
500mg/L	//	...フェノール
25mg/L	//	... Fe^{2+} , Fe^{3+} , 残留塩素
10mg/L	//	... CN^- , 陽イオン界面活性剤
5mg/L	//	... Co^{2+} , Cr^{3+} , Cr^{6+} (クロム酸), Ni^{2+}

試薬に関するお知らせ

バックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH9 です。